
妄想日記

ナイン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妄想日記

【Nコード】

N1380Z

【作者名】

ナイン

【あらすじ】

睡眠とは人生の3分の1を費やす。ならば、より満足する睡眠を求めたいものだ。そこで、寝るために瞳を閉じているわずかな時間に妄想してみよう。

この物語は、妄想のためのシナリオです。主人公を自分に置き換えながら読んでください。そして物語は途中で終わりますので、続きを各々ワクワク、ウキウキ、デレデレしながら妄想して幸せな睡眠時間を楽しんでください。

高校球児（前書き）

必ずあらすじを読んでから物語を見てくださいね。

高校球児

（本日の設定）

俺

16歳の高校1年生。兵庫県の公立高校の野球部に所属。プロのスカウトも注目株の剛腕で、ストレートは155キロを超える。変化球も多彩で、ダルビッシュ以来の大型左腕の高校球児である。

気になるあの子

16歳の高校1年生。俺と同じクラスで野球部のマネージャー。顔は少々童顔だが男子からの支持はとても高い。他の野球部員より俺と話す機会が多く、熱く野球を語り合える仲。

ストーリー

「授業中ですが、校内放送をいたします。野球部の部員、およびマネージャーは至急正門に集合してください。」

クラスのみんな「頑張れ！今日勝てば、この学校始まって以来の甲子園出場だな！」

クラスのみんな「応援してるよ！」

クラスのみんな「お前らならできる！」

クラスのみんな「よっ！未来のメジャーリーガー！」

俺「ありがとう！行ってくる！」

激励を受けながら俺はクラスを後にした。

気になるあの子「さっ！遅れないように急ぐよ！」

2人で廊下を走りながら正門を目指す。

気になるあの子「今日勝てば甲子園だね。もし、もしもだよ！今日勝ったら伝えたいことがあるんだ。」

俺「何？気になるから今教えてよ！」

気になるあの子「…内緒。」

俺「なんだよ！！」

そんなやり取りをしながら俺たちは部員たちと合流した。そして球場に向かってバスは走り出した。

主審「プレイボール！！」

試合が始まる。予想通り、終盤までは緊迫の投手戦。しかし、9回、バッターの打った球が俺の右肩に直撃。みんなで甲子園に行きたい俺は痛みを耐えながら続投を希望。この後、味方のエラーもありノーアウト満塁に。マウンドで円陣を組み、エラーした部員のためにも気力でこの場を抑える。そして延長戦へ。

この後は皆さんで各々妄想して楽しんでください（ー3ー）

ギタリスト（前書き）

必ずあらすじを読んでくださいね。

ギタリスト

（本日の設定）

俺

18歳の高校3年生。ギターの腕は日本一だがバンドは組んでいない。マイペースで自由気ままに弾いている。

気になるあの子

若者（特に女性）に絶大な人気を誇るアーティスト、名をあゆゆ。今年の紅白に出場する実力派だが、まだ20歳。モデルも顔負けのスタイルと美貌の持ち主。

ストーリー

生徒A「おい！！みんなあれ見るよ！！」

先生「授業中だ！静かにしなさい！！」

生徒A「無理無理！とにかくみんな外見でみるよ！」

生徒B「まさか！？あのリズムンってあゆゆ！？」

生徒A「間違いないよ！あゆゆのリムジンだ！！」

生徒C「マジで降りてきた！あゆゆだ！」

先生「本物ですか！？」

生徒A「でも何しに来たのかな？」

生徒C「PVの撮影とか？」

あゆゆ「失礼します。」

生徒A「あゆゆだー！ー！ー！」

生徒B「教室に入ってきたー！ー！ー！」

クラスのみんな「キャー！ー！ー！」

俺「まじか…。」

あゆゆ「ええつと…、いたわ！！彼ね。」

俺「…？」

あゆゆ「はじめまして。あゆゆと言います。単刀直入に言いますが、私と組まない??」

生徒A「まじでー！ー！ー！」

生徒B「ええええつ！ー！ー？」

クラスのみんな「キャー！ー！ー！」

あゆゆ「私と二人で世界のトップを目指すの！ー！」

何て事が起こって、日常から俺を連れ去ってくれない(´・`・；)

ボクサー（前書き）

必ずあらすじを読んでください。

ボクサー

本日の設定

俺

18歳の高校3年生。ボクシング部に所属し、インターハイで優勝経験を持つ。今まで1度も対戦相手に触らせなかったことがない天才ボクサー。甘いルックスでマスコミにも取り上げられて現在プチ有名人

気になるあの子

俺と同じクラスの高校3年生。俺のファンで試合に応援に来てくれるが、殴り合いが苦手らしく会場の外で試合が終わるのを待っているほどの内気な女の子。顔は可愛いよりも美人の部類に入る。

ストーリー

インターハイを優勝し、アマチュアでは敵なしになった俺。プロボクサーにはならず進学し、将来は公務員になろうと考えていた俺は真面目に授業を受けていた。そんな時、教室に今のボクシング界の中で最も勢いのある若手日本チャンピオンがいきなり乱入してきたのであった。

若手ボクサー「調子乗った奴はどいつやねん!？」

クラスのみんな「……。」

若手ボクサー「しけてんなあ!早よ出てこいや!」

クラスのみんな「……。」

若手ボクサー「この中でボクシングかじってるやつおるやる！早よ出てこいや！」

俺「俺やけど。」

若手ボクサー「お前か！単刀直入に言うわ。お前みたいなのが神聖なボクシングをやってもらったらはつきり言っつて迷惑やねん。俺がボコボコにしたるから来月勝負しようや。」

俺「…めんどくさいからいいわ。」

若手ボクサー「はあ？お前に断る権利なんかないわ！マスコミも今来とるねん。もちろん俺が目当てや！チャンピオンの俺がいきなり素人にタイトルマッチを設けたるんやから、ありがたく思えや！」

俺「じゃお前の勝ちでいいわ。」

若手ボクサー「ほんまに腹立つやつやな。お前が試合断るならここにおるカスみたいなのやつら殺していったるで！女はブス以外俺が抱いてやるわ。」

俺「あつ？」

若手ボクサー「まあ逃げたきや逃げていいで。もし試合するなら来月に武道館に來いや。」

挑発に乗った俺はクラスのみんなの怒りと仇を背負ってリングに立つ。

圧倒的な力でこの若手ボクサーを秒札してくださいね）
○
（

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1380z/>

妄想日記

2011年12月8日01時51分発行